

雄勝ローズファクトリーガーデン ~その物語~



旧約聖書の「ノアの箱舟」の物語ならびに伊達政宗がスペインに派遣したサン・ファン・パウティスタ号の史実を取り入れて、雄勝町の復興の物語を紡いでいるコミュニティガーデンです。合言葉は、“花と緑の力で”、“人とつながり希望を紡ぐ”です。

By 雄勝花物語



ノアの箱舟の物語 (オリーブの園)

旧約聖書の中に、ノアの箱舟の話があります。神と共に歩んだ正しい人であったノアの一族は、神の忠告を聞き入れて、大きな箱型の船を造り、家族と動物たちを船に乗せて、洪水から身を守ることができました。洪水は40日40夜続き、150日も水はひかず地上の生き物は減ってしまっています。ノアは水が引くことを確かめるために鳩を放します。3回目に鳩を放すと鳩はオリーブの葉をくわえて船に戻ってきました。これによって水がひいたことが分かりました。ここからオリーブと鳩は「平和の象徴」と呼ばれるようになりました。オリーブの花言葉は、「平和」・「安らぎ」・「知恵」・「勝利」です。本ガーデンでは旧約聖書のノアの箱舟の物語を取り入れて、復興の象徴として北限のオリーブの栽培を始めました。そしてオリーブをガーデンのシンボルツリーとしました。



カリフォルニアの庭



スペインの庭



ローマの庭



メキシコの庭



月ノ庭と月ノ池



移築したマヨイカハウス



元気の出るバラの道



ガーデンを一緒に造るボランティアの皆さん

サン・ファン・パウティスタ号の史実

サン・ファン・パウティスタ号とは、藩主の伊達政宗がスペインとの交易のために派遣した帆船ですが、雄勝町で建造されたという口伝が残っています。最近の学説では、1611年の慶長の津波で大きな被害を受けた伊達藩の復興のために外国との交易が必要と考えて、政宗は支倉常長を派遣したのではないかとされています。そこで、この郷土の史実を取り入れて、2011年の津波で壊滅した雄勝町の復興を目指して、ローズガーデンを造ることにしました。使節団が通過したカリフォルニア沖、メキシコのアカプルコ、ローマ、スペインをイメージした4つの庭を配置し、中央にはスペインから支援いただいた100年オリーブを植栽しました。作り手は地元住民とボランティアの皆さんです。私たちはこれからも地域復興の物語を紡いでいきます。



シンボルツリーのオリーブとローズガーデン



支援コンサート



cafe コリンクハウス



子ども広場バーゴラは演奏スペース、手前の芝生は観音菊、右側二月の浦を現す池があります



2017年第28回「緑の環境プラン大賞」シンボルガーデン部門「緑化大賞」受賞!